



平成31年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年7月31日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 スクロール

コード番号 8005 URL <https://www.scroll.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 堀田 守

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営統括部長 (氏名) 杉本 泰宣 TEL 053-464-1114

四半期報告書提出予定日 平成30年8月10日 配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無： 有

四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第1四半期の連結業績（平成30年4月1日～平成30年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第1四半期	19,140	23.2	1,138	68.8	1,141	58.8	751	70.7
30年3月期第1四半期	15,531	1.3	674	△22.4	718	△19.7	440	△37.9

(注) 包括利益 31年3月期第1四半期 765百万円 (43.9%) 30年3月期第1四半期 531百万円 (△1.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第1四半期	22.03	22.01
30年3月期第1四半期	12.95	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第1四半期	41,167	21,709	52.7
30年3月期	40,319	21,094	52.3

(参考) 自己資本 31年3月期第1四半期 21,702百万円 30年3月期 21,089百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
31年3月期	—	—	—	—	—
31年3月期(予想)	—	5.00	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成31年3月期の連結業績予想（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	35,000	16.9	1,200	△0.8	1,250	△2.0	850	9.6	24.88
通期	70,000	12.5	2,400	84.1	2,500	71.5	1,700	—	49.76

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	31年3月期1Q	34,818,050株	30年3月期	34,818,050株
② 期末自己株式数	31年3月期1Q	657,415株	30年3月期	707,680株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	31年3月期1Q	34,119,696株	30年3月期1Q	34,025,307株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項は、〔添付資料〕3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料の入手方法について）

四半期決算補足説明資料は、平成30年7月31日に当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国の経済は、海外情勢の不安定さから先行き不透明感が残るものの、堅調な企業業績や雇用・所得環境の改善を背景に、緩やかな回復基調で推移しました。小売業界におきましては、人手不足からくる人件費高騰への懸念や消費の二極化による節約志向が継続している一方で、好調に推移するインバウンド需要や富裕層による高額品消費の回復などの動向もみられ、消費全体は緩やかに持ち直す傾向が続いています。

このような事業環境のなか、当社グループは、収益力のある「Direct Marketing Conglomerate (DMC) 複合通販」企業の完成に向け中期経営計画を「新みらい2020」と刷新し、「グループ収益基盤の強化」を初年度の方針に掲げ、「通販事業の安定的な収益基盤の確立」及び「グループ各事業における事業環境にあわせた販促投資とコスト管理の徹底」をテーマにグループ一丸となって取り組んでおります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高19,140百万円（前年同四半期比23.2%増）となりました。利益面におきましては、営業利益1,138百万円（同68.8%増）、経常利益1,141百万円（同58.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益751百万円（同70.7%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

当社は、中期経営計画「新みらい2020」の完遂を目指すなかで、「総合通販企業」から「DMC複合通販企業」へ変革を遂げております。複合通販の今後のさらなる進化を目指し、収益力のあるDMC複合通販企業の完成へ向け、M&Aの推進による事業ポートフォリオの拡充や海外事業への取組みを強化していくなかで、当社グループの事業分野、収益構造を明確にするため、セグメント区分を変更いたします。これに伴い、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報)」をご参照ください。

なお、セグメント別の売上高は連結相殺消去後の数値を、セグメント利益は、連結相殺消去前の数値を記載しております。

① 通販事業

通販事業におきましては、組織会員向け販売において、お客様のニーズの変化に柔軟に対応し、お求めやすい価格帯での商品展開や大きいサイズのアパレル商材の取扱強化により新規顧客を取り込むとともに、オーガニックコットン中心の素材を取り揃えた新ラインを展開するなど商品企画力の強化に努めてまいりました。

以上の結果、売上高は9,811百万円（前年同四半期比3.0%増）となり、セグメント利益は947百万円（同67.7%増）となりました。

② eコマース事業

eコマース事業におきましては、EC業界での競争が激化するなか、外部モールへの新規出店による多店舗化を進めるとともにライブコマース市場への参入といった新たな販売手法の導入により受注の拡大を目指しました。また、アウトドア・フィッシング用品のECサイト『ナチュラム』を中心に、他社との差別化を実現すべく、商品構成の見直しや自社オリジナル商品の企画開発に注力してまいりました。

以上の結果、売上高は4,700百万円（同58.2%増）となり、セグメント利益は107百万円（同393.4%増）となりました。

③ 化粧品事業

化粧品事業におきましては、オリジナルブランド化粧品において、自然派化粧品『草花木果』のオフィシャルサイトの刷新など事業基盤の地固めを行う一方で、グループシナジーを生かした販売チャネルの拡大を推進してまいりました。また、オーガニックコスメブランド『24hコスメ』及び『TV&MOVIE』においては、ブランド認知の拡大に向け、積極的なプロモーション活動を展開してまいりました。このほか、海外販売において、中国での販売を強化するため、主力商品『豆乳ヨーグるとばっく玉の輿』に加え新たな商材シリーズの展開に向けた環境の整備を進めてまいりました。

以上の結果、売上高は1,497百万円（同90.0%増）となり、セグメント損失は68百万円（前年同四半期はセグメント利益78百万円）となりました。

④ ソリューション事業

ソリューション事業におきましては、決済代行サービス『後払い. com』の取扱高の拡大に向け営業活動を強化したほか、日本初、全国一律の配送料金で始められるコンビニ受取サービス『コトリ』の提供を通信販売事業者向けに開始いたしました。また、サービスメニューの拡充を図るため、ドロップシッピングサービスやアフィリエイトサービスを行う株式会社もしもの株式を取得しました。

以上の結果、売上高は2,959百万円（前年同四半期比31.8%増）となり、セグメント利益は167百万円（同66.1%増）となりました。

⑤ 旅行事業

旅行事業におきましては、平成30年1月に子会社化した株式会社トラベックスツアーズにおいて、首都圏近郊からの日帰りバスツアーの企画販売を行っております。主力であるバスツアーの販売や訪日ツアーの取扱の拡大に向け、グループや提携先などを活用した販路の新規開拓に取り組んでまいりました。

以上の結果、売上高は170百万円となり、セグメント損失は36百万円となりました。なお、当事業は当第1四半期連結会計期間より報告セグメントとしているため、前年同四半期比は記載しておりません。

⑥ 海外事業

海外事業におきましては、当社グループのノウハウや実績を生かした、中国やASEAN市場における、日本製商品の販売や訪日外国人旅行者向けのサービスの提供といった、海外での新規ビジネスモデルの構築をめざし、検討準備を進めてまいりました。

以上の結果、売上高は0百万円となり、セグメント損失は39百万円となりました。なお、当事業は当第1四半期連結会計期間より報告セグメントとしているため、前年同四半期比は記載しておりません。

⑦ グループ管轄事業

グループ管轄事業におきましては、スクロールグループの物流オペレーションや自社保有物流施設等の不動産賃貸を行っております。

以上の結果、売上高は2百万円（同1.0%増）となり、セグメント利益は29百万円（同10.1%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は41,167百万円となり、前連結会計年度末に比べ848百万円増加いたしました。この主な要因は、子会社株式の取得等による現金及び預金の減少、売上高の増加に伴う売掛金の増加、土地取得による土地の増加、子会社株式の取得によるのれんの増加によるものであります。

(負債)

負債は19,458百万円となり、前連結会計年度末に比べ234百万円増加いたしました。この主な要因は、仕入の増加に伴う買掛金の増加によるものであります。

(純資産)

純資産は21,709百万円となり、前連結会計年度末に比べ614百万円増加し、自己資本比率は52.7%（前連結会計年度末は52.3%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成30年5月8日の「平成30年3月期決算短信」で公表いたしました平成31年3月期の第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,766	1,609
売掛金	10,271	13,049
たな卸資産	7,294	7,792
その他	3,144	3,051
貸倒引当金	△250	△238
流動資産合計	26,226	25,263
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,380	4,333
土地	4,614	5,520
その他(純額)	944	905
有形固定資産合計	9,938	10,759
無形固定資産		
のれん	318	1,043
その他	795	825
無形固定資産合計	1,114	1,869
投資その他の資産		
その他	3,248	3,472
貸倒引当金	△208	△197
投資その他の資産合計	3,039	3,275
固定資産合計	14,092	15,904
資産合計	40,319	41,167
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,956	3,440
短期借入金	2,100	2,100
未払金	10,183	10,484
未払法人税等	491	280
引当金	320	233
その他	1,392	1,153
流動負債合計	17,443	17,692
固定負債		
長期借入金	526	501
引当金	90	85
退職給付に係る負債	1,024	1,040
その他	139	138
固定負債合計	1,780	1,766
負債合計	19,224	19,458

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,005	6,005
資本剰余金	6,657	6,657
利益剰余金	8,018	8,597
自己株式	△326	△307
株主資本合計	20,353	20,952
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	749	717
繰延ヘッジ損益	△29	18
為替換算調整勘定	16	13
その他の包括利益累計額合計	736	749
新株予約権	4	6
純資産合計	21,094	21,709
負債純資産合計	40,319	41,167

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
売上高	15,531	19,140
売上原価	9,651	11,885
売上総利益	5,879	7,255
販売費及び一般管理費	5,205	6,116
営業利益	674	1,138
営業外収益		
受取利息	2	3
受取配当金	20	23
その他	27	19
営業外収益合計	51	46
営業外費用		
支払利息	3	4
為替差損	—	16
持分法による投資損失	1	22
その他	3	1
営業外費用合計	7	43
経常利益	718	1,141
特別利益		
固定資産売却益	—	0
特別利益合計	—	0
特別損失		
固定資産除却損	5	4
その他	5	—
特別損失合計	10	4
税金等調整前四半期純利益	708	1,136
法人税、住民税及び事業税	201	294
法人税等調整額	56	90
法人税等合計	258	384
四半期純利益	449	751
非支配株主に帰属する四半期純利益	9	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	440	751

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)
四半期純利益	449	751
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	113	△32
繰延ヘッジ損益	△30	48
為替換算調整勘定	△0	△2
その他の包括利益合計	82	13
四半期包括利益	531	765
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	522	765
非支配株主に係る四半期包括利益	9	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント								調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	通販事業	eコマース 事業	化粧品 事業	ソリュー ション 事業	旅行事業	海外事業	グループ 管轄事業	計		
売上高										
外部顧客への 売上高	9,524	2,970	788	2,245	—	—	2	15,531	—	15,531
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	12	0	109	323	—	—	560	1,005	△1,005	—
計	9,537	2,971	897	2,568	—	—	562	16,536	△1,005	15,531
セグメント利益	565	21	78	100	—	—	32	799	△80	718

(注) 1. セグメント利益の調整額には、未実現利益△50百万円、セグメント間取引消去△30百万円が含まれておりま
す。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「化粧品事業」において、前第1四半期連結会計期間に株式会社T&Mの全株式を取得し、当社の連結子会社と
なったことから、のれん963百万円を計上いたしました。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント								調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	通販事業	eコマース 事業	化粧品 事業	ソリュー ション 事業	旅行事業	海外事業	グループ 管轄事業	計		
売上高										
外部顧客への 売上高	9,811	4,700	1,497	2,959	170	0	2	19,140	—	19,140
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	24	37	11	501	—	—	584	1,158	△1,158	—
計	9,835	4,737	1,508	3,460	170	0	587	20,299	△1,158	19,140
セグメント利益 又は損失(△)	947	107	△68	167	△36	△39	29	1,108	32	1,141

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額には、未実現利益62百万円、セグメント間取引消去△30百万円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、中期経営計画「新みらい2020」の完遂を目指すなかで、「総合通販企業」から「DMC複合通販企業」へ変革を遂げております。複合通販の今後のさらなる進化を目指し、収益力のあるDMC複合通販企業の完成へ向けて、M&Aの推進による事業ポートフォリオの拡充や海外事業への取組みを強化していくなかで、当社グループの事業分野、収益構造を明確にするため、報告セグメント区分を変更いたします。これまでの業態別4報告セグメントに、新たに「旅行事業」、「海外事業」、「グループ管轄事業」の3セグメントを追加し、7報告セグメントへと変更いたします。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第1四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「ソリューション事業」において、当第1四半期連結会計期間に株式会社もしもの全株式を取得し、当社の連結子会社となったことから、のれん760百万円を計上いたしました。なお、当該金額は暫定的に算定された金額であります。